

教育委員会だより

令和6年6月26日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

読書は脳を創る ～東京大学・酒井邦嘉教授講演会～

6月22日(土)に、東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授をお招きし『読書は脳を創る』と題して講演会を実施しました(市教育委員会共催)。パロ文化ホール小ホールには、学校関係者や一般の方を含め約300名が集い、紙の本や新聞を読むことの脳への効果やAIがもたらす危険性について大変興味深く、気付きの多いご講演を拝聴することができました。その一部を紹介します。

■紙媒体の文章(本・新聞)は、PCで検索入力をしなくても、見出しや配置を見るだけで脳が働く。また、多読より関心ある文章を繰り返し読むこと(複読)の方が、より脳の働きを活性化する。教科書などは、特に複読が効果的。

■「聞く・読む」はインプットで想像力。「話す・書く」はアウトプットで創造力。インプットは適度に少なく、アウトプットはできるだけ多い方が望ましい。

■読書を通して、言葉の意味を補う想像力(行間を読む)が自然に高まり、思索に耽ることによって自分の言葉で表現する力(考える力)が身に付く。

■生成AIは確率的な正解(可能性)を求めるが、それが本当に正しいとは限らない。また、生成AIは否定しないし、そもそも感情をもたない。生成AIというより“合成AI”というのが妥当。発達途上の子供が依存することは危険!

■ネットや対話風(型にあらず)AIへ依存は、自ら考えることを阻害し、思考力・想像力の低下を招く。自分に都合のよい選択をすることで、過剰に自己肯定感が増幅する。書き手と読み手の人間関係・信頼関係が喪失してしまう。

その他にも“目から鱗”のお話が満載でした。ICTやDX化の波は、社会全体の不可避な動きとなっています。しかし、ただ流されていくのではなく立ち止まって考えることの重要性を強く感じる機会となりました。とりわけ、子供の読書やAIとの関わりについては、さらに掘り下げて教職員にご教示いただきたいと強く感じました。

90分間のご講演の後、質疑応答の時間がありました。参加者からのいくつかの質問に対し、言葉を選んで丁寧に対応される酒井先生のお人柄にも感銘を受けました。



多治見のヒト・モノ・コトに学ぶ ～土曜学習講座～

6月8日(土)に、本年度第2回の土曜学習『わがまち多治見大好き講座』を開催しました。「美濃焼名人になろう!」を合い言葉に、参加者40名と中学生ボランティア8名が活動しました(ちなみに130名以上の応募あり)。美濃焼ミュージアムでは、ワークシートを使って美濃焼の歴史を調べたり、陶芸作家作のお茶碗でいただく抹茶体験を楽しんだりしました。陶磁器意匠研究所では、所内見学やろくろを使っての作品作りに挑戦しました。多治見の子供たちですので、幼い頃から園・学校の活動なり地域の行事なりで焼き物に触れる機会はあったことでしょう。一方で、改めて美濃焼の歴史を学んだり、ろくろを使って作陶に取り組んだりすることは初めてという子もおり、発掘された陶器や作家の作品に興味津々に調べたり、なかなか思うようにならない粘土相手に奮闘する姿が見られました。

土曜学習講座は、教育研究所の主要事業として定着し、毎回、定員を大きく上回る応募があります。会場の都合等でどうしても抽選を余儀なくされますので、担当者も断腸の思い?で参加者やボランティアの絞り込みを行っています。

どの講座においても、体験先の方々に深く関わっていただいています。子供たちにとって多治見のヒト・モノ・コトを学びながら、ふるさと多治見への愛着を深める機会となっています。また、講座内容についても、毎年、様々な工夫を凝らし、参加者にとってより充実した時間となるよう改善を重ねています。



副教育長のひとりごと ～わたしの主張2024から～

6月15日(土)は、多治見市青少年まちづくり市民会議主催の『わたしの主張2024 多治見市大会』が開催されました。各小学校区の予選を経て、小学生13名、中学生13名の計26名が、胸に抱く思いをカー杯発信しました。

話題は、身近な暮らしから世界規模に関することまで多岐に亘りました。どの子も堂々としており、心地よい緊張感を楽しんでいるかのようにも見えました。

私も、ある校区の地域住民として審査のお手伝いをさせていただきました。その場で発表していた子は、校区大会の時よりも格段に表現力が高まっていると感じました。きっと、市大会出場が決まってから家庭・学校でさらに練習を積んだのでしょう。そこには、きっと家族や学校の先生、仲間との温かい関わりがあり、発表者のみならず、多くの人々の感動や成長につながったと思うのです。主張そのものは勿論のこと、このような副次的価値も見落とすことはできません。